

会 議 録

会議の名称	第9期行田市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画第5回策定委員会	
開催日時	令和6年1月26日(金) 開会：午後3時15分・閉会：午後4時30分	
開催場所	行田市役所 305AB会議室	
出席者(委員)氏名	委員長：川島 治 副委員長：長島 敬二 古田 和也、新井 孝幸、柴崎 裕子、城村 有加、 増田 喜代子、澤田 千尋、溝上 俊亮、根岸 陵、江原 史郎、 小暮 福三、大野 秀子	
欠席者(委員)氏名		
事務局	吉田高齢者福祉課長 春日主幹 川上主幹 立原主幹 田島主査 寺田主査	
会議内容	(1) 計画の修正案について (2) 介護保険料(案)の提示について (3) パブリックコメントの実施状況について (4) その他	
会議資料	(資料名・概要等) ・第4回策定委員会が出された意見について【資料1-1】 ・第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(素案)【資料1-2】 ・第9期行田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(概要版)【資料1-3】 ・第9期期間中における介護保険料の基準月額(案)について【資料2】 ・第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画パブリックコメについて【資料3】	
その他必要事項	傍聴者 2名	
会議録の確定	確定年月日	主宰者氏名
	令和 年 月 日	

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	<p>皆様、こんにちは。それでは定刻となりましたので、ただいまから第9期行田市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画第5回策定委員会を開催いたします。</p> <p>本日、皆様にはお忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。私、本日の司会進行を務めさせていただきます高齢者福祉課の川上でございます。会議に先立ちまして、この度1月1日付で、事務局に人事異動がありましたので、ご紹介させていただきます。副参事の大木が子ども未来課へ異動となり、高齢者福祉課には主幹の立原が配属となりました。ここで、立原主幹より一言ご挨拶申し上げます。</p>
事務局	<p>皆様こんにちは。持田保育園から異動してきました立原と申します。皆様にご迷惑かけないようにしたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
司会	<p>それでは、これより第5回策定委員会を開会いたします。始めに川島委員長よりご挨拶をいただき、その後の進行につきましてもよろしく願いいたします。</p>
川島委員長	<p>はい、皆さんこんにちは。今日はずいぶん風が吹いて寒い一日ですが、振り返りますと7月14日に第1回策定委員会がありまして、9月22日に勉強会を行い、今度の日曜日に障害者計画と合同の公聴会があります。30日のパブリックコメントを経て、3月には策定ができるということです。私は日曜日のために、市に協力していただき資料を集めていますが、2040年になると、市の負担が12億円ぐらい多くなるということで、12億円の費用を払うのはどうなのかということで、市の職員の人数を削減することで賄おうとすると、25%くらいの方に辞めてもらわなければいけなくなり、市民の声はどう思っているか、そのぐらいであれば減っていいと思うのか、それは困ると思うかはわかりませんが、そのぐらい介護保険の抑制という言葉がキーワードになりましたが、費用負担を何とか抑えていくことが、持続可能な介護保険の施策になるのではないかと考えて、今回取り組んで参りました。皆さんから真剣なご意見いただき、ようやく素案のところまで来たので、今日はそれを確認していい案にしていきたいと思っております。ただ、今回残念なことです。立原さんは大変優秀な方と伺っていますが、こうして策定委員会の大詰めを迎えた段階で、事務局の大事なキーパーソンが変わってしまうというのは、市の方に事情があるので、あまり人事の事情をつまびらかに話してもらわない必要はないですが、この策定委員会を軽視しているわけではないと思っておりますが、戦略的な人事配置を市長や部長にお願いしていますが、策定委員会のみならずも変わっているわけではないのに、市の方で変わってしまうのは大変残念です。やはり事務局はしっかりとした体制で、各委員を支えて</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	<p>いただきたいというふうに考えていますが、これについて何か課長のご意見があればお願いします。</p> <p>今委員長の方からご指摘のあった通り、3月の策定に向けて一番大事な時期という中で、部の方針としての人事異動で、この計画の中心的なその調整も含めて任せていた大木副参事が異動になったというのは、大丈夫かなというふうに危惧されるのは、確かに理解できます。しかしながら、最終的な責任者として私がまとめている中では、残った職員で大木がやってきた部分を調整し、資料作り、あるいは細かい部分も含めて補いながら、やらせていただきたいと思います。いろいろと不安な委員もおられると思いますが、3月末の策定に向けて、残った者で一丸となって、進めさせていただきたいというふうに思いますので、引き続きご協力いただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
川島委員長	<p>ありがとうございます。では、立原さんにはよろしく申し上げます。それでは議事の進行を務めさせていただきます。最初に、本日の会議は公開としたいと思います。ではこれより議事に入ります。議題1計画の修正案について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>高齢者福祉課春日です。</p> <p>資料に沿って説明させていただきますので、ここで資料の確認をさせていただきます。</p> <p>（資料確認タイム）</p> <p>それでは議題1の計画の修正案について説明させていただきます。資料1-1、資料1-2をお手元をお願いいたします。</p> <p>第4回策定委員会で出された意見については、資料1-1の通りです。この意見に基づき計画の素案の修正、または今後の事業の運営で対応させていただければと思います。</p> <p>上から順に説明させていただきます。</p> <p>介護保険料の算定の仕方について、一般の人が見てわかりづらいため、一目でわかるような掲載方法の検討、については素案の150ページの通りに修正させていただきました。少し図を入れて、わかりやすく掲載しました。</p> <p>続いて、次の計画の法的根拠について詳細まで載せる必要があるのかについては、詳細の掲載は不要と判断し、素案3ページの通り削除しました。</p> <p>次の認知症サポーターのボランティア活動を、具体的にイメージできるように、素案84ページに、認知症カフェで活動していただいている様子を写真掲載しました。これは認知症カフェで行った正月リース作りに関わっていただいている様子です。</p> <p>次のインフォーマルサービスについてまとめた情報源についてで</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
川島委員長	<p>すが、既に高齢者福祉課の窓口には保険外の高齢福祉サービス等の市民向けの案内を用意しています。また、介護予防に資する地域活動等をまとめた資料について、今年度中に制作する予定ですので、ケアマネジャーの皆様にも今後提供させていただきます。計画への掲載ではなく、別途の提供をさせていただければと思います。</p> <p>次のがん検診についてですが、素案の125ページのように修正しました。市内の多いがんの死亡原因を掲載し、がんの早期発見、検診受診の重要性について、掲載させていただきました。</p> <p>次の水中ウォーキング教室の実施場所については、今後、事業運営をしていく中で検討調整してまいりたいと存じます。</p> <p>以上で計画の修正について説明を終わります。</p> <p>ありがとうございます。ではご意見をお願いします。</p>
溝上委員	<p>一目で分かる掲載方法について検討してほしいということで、絵などを入れていただいて見やすくなったと思いました。個人的な思いとしては、前期で使った分だけ反映されるということをも市民の方へメッセージとして伝えられたら、抑制につながるのではないかと思ったので、行田市で3年間に必要な介護サービス等の合計というのが、実際かかった費用を参考に算定されているのですか。</p>
事務局	<p>実際にかかった費用も参考にしますが、それだけではないです。</p>
溝上委員	<p>実際にかかった費用が大きな材料になると思うので、※印を入れて、前期で使った費用がここに反映されるという記載があった方が、メッセージとして伝わると思います。</p>
事務局	<p>見込み量の算定については前期の実績も参考にしますので、今のご意見を参考に、追加で記載するか検討したいと思います。</p> <p>表の基準額の部分で、見込みのところに実績額として入れて、頑張ると下がるというメッセージを送っても、下がらない場合もあるので、明確に表記すると誤解を生む場合もあると思うので、伝えたいことは分かりやすいように検討したいと思います。今までの実績を踏まえて、今後の見込みを出しているということが分かるように表記したいと思います。</p>
川島委員長	<p>84 ページ 認知症サポーターのボランティア活動が、具体的にイメージできるように伝えた方がいいということで、写真が掲載されているが、暗くてしめ縄を作っているのか、クリスマスケーキのホイップクリームを作っているのかよくわからないので、何を作っているのか分かるように記載してもらった方がいいと思います。認知症サポーターの認知症カフェで行っているのであれば、認知症カフェでのしめ</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	<p>縄づくり等と表記してもらった方が分かると思います。</p> <p>表記については検討します。</p>
長島副委員長	<p>10 ページ 高齢者世帯の状況について、その中で世帯の推移で「一般世帯数」とあるが、上の文章では、「本市の総世帯数」と書いてあり、「一般世帯」とは何かという感じがしました。</p>
事務局	<p>全世帯数を指しています。「全世帯数」に修正します。</p>
川島委員長	<p>まだご発言されていない方は順番に、意見でも感想でも構いませんのでお願いします。</p>
澤田委員	<p>今回、図等色々が入っていて、前回よりもすごく分かりやすくなっていて、良かったなと思いました。</p>
増田委員	<p>高齢の方で同居家族がいると、介護保険で生活援助は出来ないというご家庭がありますが、外に行くことが困難な場合や、妻が認知症で、夫が介護しているが、時々手が出たりしているケースがあります。</p>
川島委員長	<p>前半は移動支援のことだと思いますが、総合事業を活用して行っている自治体もあるので、研究していただきたいと思います。後半は虐待の話で、権利擁護の記載はありますが、実際にそのような例があるということは、情報として市としても理解していると思いますが、包括に困難事例として上がってくるとと思いますが、引き続き対応をお願いします。</p>
城村委員	<p>どうしてもこのような厚い本を見ると、字を避けて見てしまうので、表や数字で見られると分かりやすく、絵もあって大変分かりやすいと思いました。あと、介護保険が軽くなった時の支援のものが、私も参考にしたいので、取りに伺いたいと思います。</p>
川島委員長	<p>インフォーマルサービスに関して、資料は出しているつもりでも、ケアマネや支援者には届いていないようですし、一般的な情報だけだと、それを利用するとどうなるのか、一度利用すれば分かるとは思いますが、ハードルが高くインフォーマルサービスの垣根があると思うので、丁寧な情報提供をお願いします。</p>
柴崎委員	<p>75 ページ 災害や感染症対策に係る体制整備について、私が所属する居宅支援事業所も業務継続計画を策定しているところですが、「災害時には、介護等が必要な被災者が速やかに入所できるよう」という施設関係の記載があり、在宅サービスを実施している者として</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
川島委員長	<p>は、自宅で被災した方の支援というのが、どこまで出来るのかと思っています。行田市内でも地区によって色々あると思いますが、地域の方と事業所との意識の違いの擦り合わせを行い、どこまで近づけるかということが必要になってくるのではないかと思います。</p> <p>福祉避難所として施設はほぼ自動的に避難所となってしまいますが、障がい者の策定委員会では、障がいの方は危機感をもっていて、アンケートを取ると、避難所はどうなっているのかという声が多いです。市の危機管理室の職員と話す機会があり、防災の担当の方を実際にお呼びして、委員の方に、行田市の施策や取り組みをお話してもらような方向で考えています。</p> <p>避難に関して高齢者福祉課で説明できることはありますか。</p>
事務局	<p>福祉避難所については福祉課になります。同じ部内の課ですので、連携を図りながら進めたいと思います。</p>
川島委員長	<p>施設の方も被災しながらBCPと言っても大変だと思いますが、困っている方で更に手が必要な方に対して、防災士等が積極的に取組をされていると聞き感心しましたが、介助ができる体制、防災士や防災介助士をリストにしておくなり、何かあれば情報発信が出来るような仕組みづくりに、ぜひ高齢福祉課も入ってもらって、災害時の対応をお願いします。</p>
新井委員	<p>高齢者いきいき安心元気プランは第9期になるわけですが、そもそもこの冊子はどこで手に入って、配布は誰にするのですか。</p>
事務局	<p>厚い冊子と概要版の2種類を作ります。厚い冊子は庁舎内関係部署や市政情報コーナーやホームページに掲載します。概要版については完成次第、自治会を通して全戸配布する予定です。</p>
新井委員	<p>8期の時の地域包括支援センターの担当区域が図が出ていますが、昨日の地域包括運営協議会で[まきば園]が辞めるという話でしたが、図はどうなりますか。</p>
事務局	<p>あくまで9期は今年度内の作成になりますので、今現在のものを掲載し、その後どう変わるのかは分からないので、変更のあったものは広報等を通じて周知していきますが、計画には次の計画で反映することになります。</p>
古田委員	<p>歯科医師会としても努力しなければいけません。126ページの⑤歯周疾患検診の受診促進について、これはいつも保健センターで年間事業計画を打ち合わせする時に、どうしても世代別の歯周疾患検診の</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
川島委員長	<p>受診率が低いことが、歯科医師会としてもとても心配しています。比較するのは変ですが、がん検診だと1,000人台なのに対し、歯周病健診だと200人台となり、命に別条のないものは受ける必要がないと思われているのか、もう少しこの計画に、介護状態になる人を抑制するためにも、歯周疾患を抑制して口腔機能を維持することはとても大切だということを強調してもらって、読んだ方に歯科検診を受けることが有意義であるということをお伝えされるようにしていただけたらと思います。</p> <p>歯に関しては、認知症との相関や糖尿病、感染症や死亡率にも関連があると言われているので、重要な施策だと思われます。ただ他の施策とのバランスも考えると、歯周病の検診だけ多くを割くことは出来ないと思うので、歯科医師会の方で、記載内容を考えていただいて、市と協議していただけたらどうでしょうか。</p>
事務局	<p>これは歯周疾患検診を所管している健康づくり課から出てきた文章なので、健康づくり課と調整して、ご連絡させていただきます。</p>
大野委員	<p>8ページのイラストを見てすごく考えさせられ、とても良い資料だと思いました。イラストを見るとやはり、若い人の人口が少なく、介護の担い手も少なくなっていることが問題だと思います。奇想天外かもしれませんが、福祉大学や福祉専門学校とか、福祉高等学校等が行田にもあれば良いのと思います。そうすれば若い人たちも来るようになるし、将来担い手になると思うので、学校の誘致をお願いできればと感じました。</p> <p>また、介護度が軽くなった時に切り替えるのはとても良い案だと思います。軽くなった個人や事業所等、結果が出ている所に、ご褒美のポイント等があれば、より一層良いのではないかと感じています。他の自治体では記念品や表彰をしている所もありますが、今の時代そういうものは要らないと思うので、SNSで動画等のご褒美を差し上げたら喜ばれるのではないかと感じました。</p>
川島委員長	<p>福祉系の学校に関しては高齢者福祉課で手が届くのか難しいところですが、少子化に関しては街に雇用がないのと、交通の便が悪いというのが、新成人の声としてはあって、それが少子化につながっている部分もあるので、高齢者がこれから増えていくという意味では、在宅介護に関しても、2,000人足りないという数字が出ているので、介護の人材を集める施策があれば良いと思いますのでよろしく願います。</p> <p>あと、介護度が下がると施設は収入が減ってしまうので、一生懸命やればやるほど赤字になってしまうので、補填という形が良いのかは分かりませんが、他の自治体ではボーナス的なものがあるとも聞いて</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
事務局	<p>いますが、行田市としては何か考えはありますか。</p> <p>学校の誘致については難しいですが、介護人材の確保については、ただ補助金を出すだけではなく、うまくつながるような形で施策的なものを盛り込んでいければと思います。</p> <p>介護度が軽くなった時のボーナス的なものは、どういったものがあるのか、私の方も勉強不足ですので、他市の取り組みを見て、本市でどのように取り組めるのか研究したいと思います。</p>
川島委員長	<p>インセンティブについては7期から要求していることなので、勉強不足で済まさないで、今日にでも勉強していただいて、出来ない事は出来ないでもいいので、職責を全うしてもらいたいと思います。</p>
溝上委員	<p>学生の関係で、私は診察で近隣市町も含めた色々な学校を周るのですが、介護を目指す学生は埼玉県北部からは来ず、県南部から来る傾向があるそうです。理由は分からないのですが、県北から来る生徒が少ないと、どこの学校もおっしゃっていました。</p>
川島委員長	<p>子どもの頃から、介護職が学校で出前授業をすとか、介護の素晴らしさを教えるような教育も考えて行けたらと思います。</p>
事務局	<p>9期の計画で、重点目標にも挙げていますが、学生には研修の機会を設け、小中学生から高齢者に触れる機会や、介護の仕事の魅力の発信、職場体験等を含めて、現場に接する機会を設けて、現状を知ってもらいながら、介護業界に進めるように土壌を作っていきたいと考えています。</p>
小暮委員	<p>自分が年寄りなので、年寄りの心配ばかりしていますが、127ページにある高齢者肺炎球菌ワクチンの件ですが、計画を読むとハガキが行政から届くと書かれています。5年ごとに行政から該当者にハガキが送られてくるのですか。自分としては5年後がいつになるのか記憶にないので、行政から5年ごとのハガキが送られてくるのであれば、予防接種を受けたいと考えています。</p>
事務局	<p>所管課に確認して、追って連絡します。</p>
江原委員	<p>災害について、自治会の班の中でどのように助け合うか、改めて考えさせられました。家族が多ければ、助け合いが出来ると思いますが、一人暮らしの方等は班ごとに助け合っていかなければならないし、地域で考えていかなければならないと思いました。</p> <p>親戚から預金を下ろしてほしいと頼まれて、コンビニで下ろしたのですが、やはり信用ある人でないとお金は下せないと感じました。個</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
川島委員長	<p>人的に信用できる人がいればいいのですが、自治会でももっと横のつながりを持たなければいけないと感じました。お金の管理は計画の中にもありましたが、そうでない部分は自治会でも担っていかなければならないと思いました。色々と勉強させていただき、ありがとうございました。</p> <p>障がいの方で言うと、昼夜に介助者がいる方は 50%で、1人で避難できない方は半数以上という数字が出ています。避難する時に、避難行動要支援者名簿というのがありますが、そこに名前を載せることに抵抗がある方もいます。自治会の中でも高齢者の独居の方等、避難する時は大変だと思いますが、よろしく願います。</p>
江原委員	<p>民生委員の方としっかりとタッグを組んでやっていかなければならないと思いました。</p>
川島委員長	<p>お金のことは後見人制度という公的なものがあるにせよ、「ちょっと下ろしてきてよ」というようなやり取りは今後もあって、身近な互助力というものに対して、ボランティアポイントを付けるかどうかは別として、何か育成していくような仕掛けを作ってもらわないと、やった人が苦勞して責任だけ負わされてしまうということがないような、互助の仕組みがあれば良いのですが、何か市の方でコメントはありますか。</p>
事務局	<p>明確な互助の仕組みをお伝えするのは難しいですが、見守りの目を増やすとか、ご近所同士で顔の見える関係を作るといような形で、地域支援ネットワーク会議というものを、包括を含めて年2回開催しています。また社会福祉協議会の方で災害時に対応できるような、支え合いマップづくりを各自治体で行っていて、関係を強化するような取組を行っているところです。</p>
江原委員	<p>それをもっとやっていただきたいと思いました。</p>
根岸委員	<p>素案は図や表がたくさん使われていて分かりやすいと思いました。28ページの介護離職防止、生産性向上への取組支援について、「介護サービス事業所調査の中で、介護人材が不足していると回答した事業所が」とありますが、介護人材が不足しているという定義は、各事業所がどのように判断しているのか、担当者の主観的な感覚なのか、何か数字があるのか気になりました。</p>
事務局（課長）	<p>アンケート調査報告書の81ページの問5で、「貴施設等で、不足している職種は何ですか。職種ごとの不足人数をお答えください」と聞いています。実際に現場の方がどのように考えているのか、深堀はし</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
根岸委員	<p>ていませませんが、選択された結果がこのようになっています。委員のおっしゃったような「不足の定義」については確認が取れていないのが現状です。</p>
川島委員長	<p>サービスごとに人員配置の基準があると思いますが、多くの事業所は基準より多くの人員を配置していると思います。一方で、こういった継続的な調査をするのであれば、3.0に対して2.5のような人材不足を数値化できるような指標があった方が、どの部分が増えたのか減ったのかが見えてくると思いました。</p>
事務局	<p>51%という数字を見ると、半分は足りていると取られてしまうかもしれないので、介護人材が不足しているという書き方を、今回はこの表現でいいと思いますが、次回以降、もっと積極的に、どういうものが不足している等、書く余裕があれば書いた方がいいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>確かに51%というのは、人によって捉え方が違うと思いますので、次回以降、アンケートを実施する場合には、今いただいた意見を踏まえながら、ただ前回行った調査と全く違うものをするという意味がないと思いますので、継続的な調査と、それをどう活かしていくかという視点を踏まえて、アンケート等を取りながら、次回以降の計画に反映できればと思います。</p>
川島委員長	<p>せっかく人材確保の施策を打つわけですから、行った施策を評価するためには測定できるような数値の設定をしていただきたいと思います。表記の仕方を工夫していただいて、半分足りているから良いのではないかという印象にならないようにお願いします。</p>
溝上委員	<p>98 ページの絵について、今回この絵を見た時に、以前、地域包括ケアシステムの図をイメージしたものとしての植木鉢の絵を使っていましたが、その絵と似ていると感じたのですが、今回、計画の主旨として、介護保険サービスをなるべく自助努力で押さえていくというのがメッセージとしてあると思いますが、この図だと公助が一番下であって、共助・互助が真ん中、自助が一番上にあるというところで、これを一般の方が見ると、公助・共助で支えてくれるので、自助はしなくて良いという風にとられるのではないかと思います。国としては自助努力で頑張って、ダメなら共助・互助があって、最終的に公助で支えるという主旨であったと思いますが、この辺りの見せ方についてはいかがですか。</p>
事務局	<p>第8期と同じものですが、今ご指摘があって、見方によっては捉え方が違うという事なので、検討させていただきます。</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
溝上委員	<p>公助が受け皿的な見え方なので、本来公助とはそういうものですが、もっと自助を大切にするという主旨が伝わるといいと思うので、ご検討ください。</p>
長島副委員長	<p>民生委員として日頃頭を悩ませている問題は、最近孤独死が多いことと、認知症の方が増えていること、防災関係で要支援者避難行動です。例えば認知症について、65歳以上になった方は必ず検査を受けてもらうというのが1つと、もし費用的に難しいのであれば簡易チェック表を用いて、民生委員がそれぞれの地区の担当者にチェックしてもらうとか、それに基づいて認知症の疑いがある場合は、本人または家族に話をし、正式なもの忘れ診断を受けてもらう等の方法で、認知症予防の対策をとったらどうかと考えていました。いずれにしても高齢化は進んで行くので、認知症の方の数は増えると思いますが、本当に認知症かどうか、その辺の見極めが非常に難しいので、何か良い方法があればそういうものを利用して、早期に認知症の治療につながる方が増えればいいと思います。</p>
川島委員長	<p>物忘れ外来には、本当に軽症の方が不安になって受診する場合と、重度になって何とかしてほしくて受診する場合の二峰性になっていて、早期に治療する方はなかなか増えないのと、物忘れ検診自体の数が増えないということがあるので、市として何か施策があればお願いします。</p>
事務局	<p>以前、高齢者の皆さんに二次予防事業というのが過去にあって、毎年アンケートを高齢者全員にやっていた時代がありましたが、費用ばかりかかって効果がないということで、国が廃止した事例が過去にありました。市では認知症のチェックができるように、ホームページに認知症チェックの質問を載せて、いつでもチェックできるようにしています。物忘れ検診や認知症サポーター養成講座の普及によって、認知症の理解を広めていく活動はこれからも続けていきたいと思っています。</p>
川島委員長	<p>ホームページにアクセスして頑張ろうという人が認知症かということにもなるので、人との関わりの中で、民生委員がいいのか近所の方がいいのか分かりませんが、こういうものがあるよと勧めてもらってつながるようにしてもらおう等、大事な施策の1つなので、検討していただきたい。</p> <p>他に何かありますか。なければ次の介護保険料について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料2をご覧ください。第9期の介護保険料の基準月額について、</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
	<p>今回 5,720 円、第 8 期から 120 円のプラスで算出しています。介護保険料の算定については図のようになっています。大まかには、3 年間で必要な介護サービス等の合計のうち、23%の第 1 号被保険者の負担分相当額を第 1 号被保険者数（65 歳以上の高齢者数）で割って算出するものです。</p> <p>これまでの各計画期間の介護保険料の推移については、資料をご参照いただければと思います。以上となります。</p>
川島委員長	<p>保険料の提示についてはいかがでしょうか。</p>
古田委員	<p>プラス 120 円で前回から 2.1%について。年金受給の増額が今期 2.7%で、これはマクロ経済スライドというもので算出されるのですが、実質インフレ率などを考えると 2.1%というのはちょうど良いと思いました。</p>
川島委員長	<p>他の市町村の情報はありますか。</p>
事務局	<p>最終的に条例にあげて保険料が決定するので、正確な数字は教えていただけていないのですが、近隣では今の保険料よりも上がると聞いています。</p>
溝上委員	<p>行田市内では高齢者の方が増えていると思いますが、第 8 期から第 9 期にかけて、高齢者が増えているのに 120 円で収まったというイメージがあって、この実績のグラフの中に、高齢者がこれだけ増えたけれども、今回これだけに収まったというイメージが入れられれば良いと思ったのですが、いかがですか。高齢者の数のグラフを入れて、右肩上がりのグラフになるけれども 5,720 円で収まったので、これから頑張っていきましょうというイメージが持てれば良いと思いました。</p>
川島委員長	<p>今の視点はとても大切で、少子高齢化の中で保険料があまり上がらずに済んでいるのは、皆様の努力のおかげですというメッセージが伝わればいいですね。このグラフの中に入れるのは難しいと思いますが、そういう情報も提供して、この基準月額が意味することについて何か記載できるといいと思いますが難しいですね。こういう意見があったこと。よくやっているという評価と考えていただければいいと思うので、よろしくお願いします。</p> <p>何か他にありますか。なければ議題 3 パブリックコメントの実施状況について、説明をお願いします。</p>
事務局	<p>本日配布した資料 3 をご覧ください。本計画のパブリックコメントを実施しています。募集期間は 1 月 29 日までとなっております。現</p>

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
川島委員長	<p>在のところで1件、寄せられておりました、その意見については、本日配布させていただきました資料3の別紙、第9期行田市高齢者保健福祉計画介護保険事業計画(素案に対するご意見)に記載しています。計画全般、多岐に渡るご意見をいただきました。</p> <p>今のところは以上です。</p> <p>パブリックコメントの意見に対する質問は、特にないと思います。皆さんも積極的に周りの方にご周知いただいて、1件でも多く関心を持っていただけるようお願い致します。</p> <p>次にその他について事務局からお願いします。</p>
司会	<p>議題4 その他について 本計画における最後となる第6回策定委員会について、3月15日(金)午後1時45分から行田市産業文化会館2階2A2B会議室で行う予定です。なお、近くになりましたら改めて通知しますが、予めご承知おきください。また、明後日1月28日(日)10時30分から、行田市総合体育館、行田グリーンアリーナの2階研修室において、障がい者計画等(案)と合同の市民説明会を開催いたします。受付開始時間は10時からとなります。お時間のある委員におかれましては、ご参加いただければと存じます。以上です。</p>
川島委員長	<p>他になれば、本日の議題は全て終了いたしました。</p> <p>以上で閉会と致します。ありがとうございました。</p>
司会	<p>本日はお忙しい中、皆様ありがとうございました。</p> <p>以上で第5回策定員会を閉会といたします。どうぞお気を付けてお帰り下さい。</p>